

LEAF プログラム ローカルインストラクター研修

作成：清水環 2013 年 3 月 26 日(火)

1. 開催場所： 県民の森、まなびの森
2. 開催日： 平成 25 年 3 月 23 日（土）～3 月 24 日（日） 天候：晴れ
3. 講師： 国際 NGO FEE Japan より 伊藤正侑子さん、吉田正木さん、麻生翼さん
4. 参加者： 岡島、瀧口（朱）、瀧口（邦）、大石、林、高崎、清水、
（研修者）上林、北村、池田

まず、講師の伊藤さんから、FEE とはどのような団体か、LEAF プログラムとは何かという説明がありました。FEE とは国際環境教育基金の略で、ヨーロッパ（特にデンマーク、ノルウェイ、フィンランドなどの北欧）を中心に広まった、世界で最も大規模な環境 NPO/NGO のひとつだそうです。LEAF プログラムとは、FEE の持つ 5 つのプログラムのうち、森林環境教育を実施するプログラムです。「Clever Question, Good Decision」というキャッチフレーズがありますが、良質の問いかけをすることで、参加者が五感を働かせ、感じ、考え、その結果地球、社会、暮らしに良い選択ができる人になっていく、というものです。

吉田さんからは森林を生業の場とする立場、麻生さんからは実際に北海道の下川町でプログラムを実施している立場からお話をいただき、その後、県民の森で三人三様のプログラムを披露していただきました。

2 日目は、実際に参加者がプログラムを考え、実施し、講師から講評を受けました。何を伝えたくてそのプログラムをするのか、をまず考えます。そして小学校低学年か中学何年生か大人かというような対象、理科・社会・体育…などの教科、社会的・文化的・経済的・生態学的な要素のジャンル、などを設定して、プログラムを組み立てます。

大事なものは、教えてしまわないこと。

多くを説明せずに、参加者がひとつの行動をすることや、何人かで意見を述べ合い認め合うことで、何らかの気づきがあるように導きます。このような設定のなか、プログラム実施者は一方的に話すのではなく、対話したり対象者の反応や発言を積極的に受け入れていけるかがカギとなってきます。場数をふむ必要があります。

2 日間にわたる研修で、かなり一生懸命考え、頭を柔らかくしないとついていけず、なかなか大変でした。「伝える」だけではだめで「伝えるように！」という思いと技術が大事なのだと感じました。

さて、こののち参加者がローカルインストラクターになれるかは 3 月 31 日提出締め切りのレポート次第？

